
平成24年1月期第2四半期(累計)
決算参考資料

平成23年8月31日

(株)サガミチェーン

東証・名証1部上場 コード:9900

設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

| | | |
|---------------------------|-------|----|
| 1. 連結対象企業の事業内容 | _____ | P2 |
| 2. 平成24年1月期第2四半期(累計)の業績概況 | _____ | P2 |
| 3. 財政・キャッシュフローの概況 | _____ | P3 |
| 4. 店舗展開の状況 | _____ | P3 |
| 5. 平成24年1月期第2四半期(累計)の業績背景 | _____ | P4 |
| 6. 平成24年1月期の業績予想 | _____ | P5 |
| 7. 開示書類について | _____ | P5 |
| 8. 追補 | _____ | P5 |

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は5社であります。

[連結子会社]

| 名称 | 住所 | 資本金又は 出資金（千円） | 事業の内容 | 議決権の所有 割合（％） |
|--------------------|---------|------------------|--|-----------------|
| 株式会社ディー・ディー・ エー | 名古屋市守山区 | 200,000 | 飲食店の経営 FC店店舗への材料 提供及び経営指導 | 100.0 |
| 株式会社サガミサービス | 名古屋市守山区 | 10,000 | 損害保険及び生命 保険の代理業務 環境機器のメンテ ナンス業務 | 100.0 |
| 株式会社エー・エス・サガ ミ | 名古屋市守山区 | 70,000 | 飲食店の経営 | 71.4 |
| 株式会社ボンパナ | 名古屋市守山区 | 50,000 | ベーカリーの製造 販売 | 100.0 |
| 上海盛賀美餐飲有限公司 | 中国上海市 | 260,000 | 飲食店の経営 | 93.4 (16.5) |

※議決権所有割合の（ ）書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成24年1月期第2四半期(累計)の業績概況

○連結業績の概況

○個別業績の概況

| 単位 (百万円/円) | 平成22年 7月期 | 平成23年 7月期 | 前年比 (%) | 単位 (百万円/円) | 平成22年 7月期 | 平成23年 7月期 | 前年比 (%) |
|----------------|--------------|--------------|------------|----------------|--------------|--------------|------------|
| 売上高 | 9,626 | 9,530 | △1.0 | 売上高 | 8,258 | 8,292 | 0.4 |
| 営業利益 | △359 | △113 | — | 営業利益 | △307 | △66 | — |
| 経常利益 | △325 | △111 | — | 経常利益 | △278 | △63 | — |
| 当期純利益 | △980 | △371 | — | 当期純利益 | △882 | △229 | — |
| 一株あたり 当期純利益 | △40.22 | △15.25 | — | 一株あたり 当期純利益 | △36.18 | △9.43 | — |

○第2四半期決算の配当について

第2四半期決算の配当つきましては、3月2日発表の通り見送ることといたしました。

○株主優遇策について

平成23年7月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当（通期換算 3万円）の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

| 単位 (百万円/%/円) | 平成23年 1月期 | 平成23年 7月期 |
|-----------------|--------------|--------------|
| 総資産 | 16,092 | 15,335 |
| 純資産 | 10,152 | 9,727 |
| 自己資本比率 | 63.0 | 63.3 |
| 一株あたり純資産 | 415.74 | 398.30 |

○連結キャッシュフローの状況

| 単位 (百万円) | 平成22年 7月期 | 平成23年 7月期 |
|-------------------|--------------|--------------|
| 営業活動によるキャッシュフロー | △477 | △88 |
| 投資活動によるキャッシュフロー | △326 | 69 |
| 財務活動によるキャッシュフロー | 802 | △214 |
| 現金及び現金同等物 期末残高 | 2,624 | 2,389 |

○設備投資について

連結設備投資は 65百万円 (H22.7実績 501百万円) となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 224百万円 (H22.7実績 258百万円) となりました。

4. 店舗展開の状況

| | 平成23年1月期 | 平成23年7月期 (第2四半期末実績) | | | 平成24年1月期計画 (通期計画) | | |
|-------|----------|------------------------|----|-----|----------------------|----|-----|
| | 店舗数 | 出店 | 閉店 | 店舗数 | 出店 | 閉店 | 店舗数 |
| サガミ | 131 | — | 1 | 130 | — | 1 | 130 |
| どんどん庵 | 76 | — | 5 | 71 | 3 | 7 | 72 |
| あいそ家 | 14 | — | — | 14 | — | — | 14 |
| 上海盛賀美 | 5 | 1 | — | 6 | 2 | — | 7 |
| 製麺大学 | 7 | — | — | 7 | — | — | 7 |
| その他 | 11 | — | — | 11 | 3 | — | 14 |
| 合計 | 244 | 1 | 6 | 239 | 8 | 8 | 244 |

○第2四半期累計期間の店舗展開の状況について

中国上海市に展開しております「盛賀美」を1店舗出店し、これにより出店店舗数は1店舗となりました。一方閉店につきましては、「どんどん庵」5店舗、業態転換のため「サガミ」1店舗の合計6店舗となり、これにより期末の店舗数は239店となりました。

○平成24年1月期の店舗展開の計画について

業態変更を含む新規出店は「上海盛賀美 2店」「どんどん庵 3店」「その他業態 3店」の合計 8店 (うち純新店数 7店) を計画しております。一方、閉店につきましては「どんどん庵 7店」、業態転換のため「サガミ1店」の合計 8店 (うち純閉店数 7店) を見込み、これにより平成24年1月期末の店舗数は 244店を計画しております。

5. 平成24年1月期第2四半期(累計)の業績背景

- (1) 第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高は四期連続の減収。営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、前期に引続き改善となりました。これは、売上高は減少したもののFLRコストの低減などにより収益性が改善したためであります。
- (2) 第2四半期累計期間の取り巻く環境につきましては、新興国需要の伸びや政府の経済対策等で、緩やかな回復基調がみられた中、3月11日に発生致しました東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響により、サプライチェーンの混乱や生産活動の低下を招き、雇用不安や個人消費の低迷など、先行きに対する不透明感が強まっております。外食産業におきましても、震災後の余震や計画停電の実施による営業時間の短縮、歓送迎会の自粛による宴会需要の落ち込み等の影響があり、5月以降回復の兆しを見せているものの取り巻く経営環境は大変厳しい状況が続きました。
- (3) 売上高につきましては、前年同期比 1.0%減の9,530百万円となりました。これは、連結子会社(株)DDAの売上が「どんどん庵」店舗閉鎖、直営店舗よりFC店舗への変更等の影響もあり、前年同期比16.8%減となったためであります。
- (4) 売上原価率は前年同期比 1.4%低減の30.4%となりました。販管費は経費削減計画の効果等により前年同期比 174百万円の減額となりました。これにより、営業損失は前年同期比 245百万円改善の113百万円、経常損失は前年同期比 213百万円改善の111百万円となりました。
- (5) 当期純利益におきましては、経常損失に加え減損損失や固定資産除却損等 231百万円を特別損失に計上したため、371百万円の純損失となりました。なお、平成22年7月期は減損損失の計上や資産除去債務の適用等により980百万円の当期純損失を計上しております。このため、前年同期比では608百万円の改善となりました。
- (6) 平成23年3月2日公表の業績予想(以下 期初予想)におきましては、既存店売上高を前年同期比「サガミ1.6%減」「どんどん庵10.0%減」を見込んでおりました。また、売上原価率におきましては、購買単価の減額等により前年同期比 1.0%低下を計画しておりました。この結果、期初予想比では売上高が150百万円の増収、営業利益は156百万円、経常利益では168百万円のそれぞれ改善となりました。
また、期初予想では特別損失89百万円を見込んでおりましたが、実績では231百万円となりました。しかしながら当期純損失は期初予想比 48百万円の改善となりました。
- (7) 主力業態「サガミ」の既存店の状況につきましては前年同期比、客数0.7%増、客単価1.7%減となり、これにより売上高は1.0%減となりました。

6. 平成24年1月期の業績予想

○連結業績予想

| 単位 (百万円/円) | 平成23年 1月期 | 平成24年 1月期 (予) | 前年比 (%) |
|----------------|--------------|---------------------|------------|
| 売上高 | 20,134 | 19,750 | △1.9 |
| 営業利益 | △230 | 10 | — |
| 経常利益 | △205 | 0 | — |
| 当期純利益 | △1,221 | △300 | — |
| 一株あたり 当期純利益 | △50.08 | △12.30 | — |

○個別業績予想

| 単位 (百万円/円) | 平成23年 1月期 | 平成24年 1月期 (予) | 前年比 (%) |
|----------------|--------------|---------------------|------------|
| 売上高 | 17,531 | 17,250 | △1.6 |
| 営業利益 | △95 | 50 | — |
| 経常利益 | △75 | 40 | — |
| 当期純利益 | △1,141 | △160 | — |
| 一株あたり 当期純利益 | △46.80 | △6.56 | — |

- (1) 平成23年3月2日に公表いたしました、平成24年1月期（平成23年1月21日～平成24年1月20日）の業績予想数値から変更していません。
- (2) 売上高につきましては前年同期比 1.9%減の19,750百万円を計画しております。
- (3) 売上原価率は前年同期比 1.0%低下の30.5%を見込んでおります。販管費におきましては、前年同期比 296百万円減額の13,722百万円を想定しております。
- (4) 配当につきましては見送る方針であります。

※業績予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予測数値と異なる可能性があります。

7. 開示書類について

本日の決算発表に併せて以下の内容につきましても開示しております。

- ①連結子会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ。

8. 追補

- 中期経営計画について

当社は、現在中期経営計画を策定中であります。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。